

神楽坂まちづくりワークショップ 記録

- ◆日時：2018年11月7日（水） 18:30~20:45
- ◆会場：東京理科大学森戸記念館 第一会議室
- ◆主催：NPO 法人粋なまちづくり倶楽部、芝浦工業大学環境システム学科
- ◆参加者：神楽坂地域関係者 13名（まちづくり興隆会、神楽坂通り商店会、NPO 法人粋なまちづくり倶楽部、新宿区景観まちづくり課、アイデザイン）
芝浦工業大学教員・学生 13名

◎プログラム

司会進行：鈴木俊治（NPO 法人粋なまちづくり倶楽部副理事長、芝浦工業大学教授）

- | | |
|--------------------------------------------------------|-------|
| 【主旨説明】 | 18:30 |
| ◆テーマ1：神楽坂の街並み景観 | |
| 1. 街並み景観の定量把握 | 18:40 |
| 2. 屋外広告物の定量把握 中間報告 | 18:50 |
| 3. アンケート記入、意見交換 | 19:00 |
| ◆テーマ2：大久保通りの拡幅とまちづくり（60分） | |
| 1. 拡幅についての住民・来訪者等アンケート結果報告 | 19:40 |
| 2. 大久保通りが広がった場合、どのように使いたいか？どのような場にしたいか？
アンケート及び意見交換 | 19:50 |
| 【閉会】 | 20:45 |

◎意見交換・討議要旨

【街並み景観、屋外広告物について（全体討議）】

- 置き看板は、景観において阻害要因と考えられる。
- 看板類には多種多様な形状や色彩があり、一律に扱わず、それらの状態によって対応方策が異なるのではないか。
- 写真で改めてみると、さまざまな屋外広告があることがわかったが、生活しているとさほど気になるものではない。
- 看板の配置の違いは、商業店舗ごとのターゲットやユーザーによって生じるものであり、ガイドラインなどの規制によるものではないのでは。
- 神楽坂には街並み景観に関するコンセプトがない。通りとして統一感を出せるような、神楽坂らしいコンセプトが必要なのではないか。
- 神楽坂は坂道であり、その地形が景観に影響を与えている。
- 雑然とした街並みも神楽坂らしいと感じるため、統一を強いるようなコンセプトは不要ではないか。
- 一次景観において、屋外広告物の占める割合は10数パーセント程度だが、視野のあちこちに分散しており、しかも「図」であるため、景観に与える影響は小さくないのでは。
- 一次景観の中に看板が不規則に入ってくるのがおもしろいと感じた。緑や外壁は連続性があるの

に対し、看板のみが規則性がないのではないか。

- 神楽坂は浅草や日本橋、谷中銀座と異なり、街並みに統一感がないと感じる。神楽坂らしさを代表する友人に勧められる店や土産品も思いつかない。一方で雑然とした街並みに神楽坂らしさを感じる。
- 置き看板に関しては、目の不自由な方がぶつかっているところを見かけたこともあり、日頃から非常に危険であると感じる。置き看板を廃止し、集合看板としてまとめることが有効的である。
- 置き看板に関しては、新宿区と見回りのパトロールを月に1度ほど行っており、2年前までは約60個が確認された。しかし注意しても見回りが去った後に戻されるため、効果は少なかった。理由は不明だが、昨年からは置き看板の確認された数が約20個と急激に減少している。
- 今年から置き看板を確認次第、区が回収できる条例が施行されたが、所有者の許可が必要であるため、果たして許可する人はいるのか不明である。
- かつて、神楽坂の外壁の調査をしたことがあるが、あらゆる色があり、特にどれが悪いという評価はなかった。しかし、特定の派手な色が大きな面積を占めていると、景観的にはマイナスの評価であった。外壁や看板類は、周辺環境とある程度調和しているか、突出していないかという関係性によって評価が決まるのではないか。

【大久保通りの拡幅について（3グループに分かれた討議）】

1. 大久保通り及びその周辺施設に設けたい機能や景観の方向性について

◎歩道を歩いていて気持ちいい回遊空間にする

- 人が集まる工夫→街路樹にイルミネーションなど
- 多様な利用ができるオープンスペースを設ける。雨に濡れない場所（屋根）もあるとよい。
- 歩くだけで楽しめる、神楽坂の中心となる場所を設ける
- 家族連れも楽しく歩ける→歩道にベンチや遊具
- 統一された街並みとする。
- 並木道とする。樹木は高木として視界を良くする。高木だけではなく、プランターなども利用したい。光と緑と水があると癒される。樹木の種類は、個所によって違ってよい。
- かつてサクラ並木を検討したが実現しなかった。大久保通りのサクラ並木は検討に値する。
- 歩道の仕上げはインターロッキングなどにして美しくし、まちとして連続性を持たせる。
- 神楽坂通りは坂上と坂下で木の種類が異なる。坂上は落ち葉が気にならない。坂下のケヤキは葉が落ちて大変。しかし屋外広告物を隠してくれているため景観上は良い点がある →植える木の種類をしっかりと考えるべき。
- 中央分離帯を緑化。
- 表通りは賑わい、裏通りは趣といった違いを大事にする
- コミュニケーション空間
- 阿波踊りなどのイベントスペース
- 出版社が多いことから本をきっかけに→屋外で読書、移動図書館など
- 残地を無理に緑地にしても、見栄えも管理も使い勝手も悪く、無い方がよい（実際そのような緑地が出来ている）。

◎神楽坂らしさを残し、活かす

- いわゆる観光地にするのではなく、良い住民環境を作りその中に様々な人が入ってくるまち
- 神楽坂をPRする観光センターのような施設をつくる
- 路地を活かす
- 便利にしすぎない（車の通行など）。不便さや不器用さも神楽坂のよさ
- 人材についてはさまざまな分野のプロフェッショナルが多数いて、アイデアは豊富にある
- どんな人でも歓迎ではなく、神楽坂の価値がわかる人だけ来てくれれば良い
- 神楽坂では、広いオープンスペースは必ずしも良いとは限らない
- 空間のハード面を決めすぎない→ まちを使っていくうちにどんどん内容が深まっていくので、フレキシブルな空間がよい（毘沙門天境内や、坂にお絵かきをする通りも、多様な使い方ができる）
- まちのなかで個性を競い合い、その場所の個性を磨いていくと人の流れができる。
- 大久保通りを一律に同じにするのではなく、樹木や沿道の店舗などの違いにより、神楽坂に入ったことがわかるようになるとよい。
- 大久保通りは神楽坂通りとは明らかに性格が異なり、従来から通過交通機能が高い道であるので、それなりの（神楽坂とは違う）にぎやかさでよい。
- 拡幅後にできる沿道の建物の1階がどうなるか。放っておくと全部マンションになってしまうと、通りの賑わいはできない。ある程度コントロールしたうえ、広い歩道にテーブルなど出してお茶を飲めたりするとよい。
- 例えば浅草寺のように、無料でそれなりに楽しめる場所が神楽坂にはない。

（自動車、自転車交通について）

- 車道は片側1車線ずつでよい。
- 車を中心に考え、歩道も有効活用する。緊急避難路として片側2車線は必要。
- 駐車場や駐輪場の設置。
- 自転車専用レーンを設ける。レンタサイクルを導入する。

2. 道路拡幅により、坂下と坂上が分断されないようにするにはどうしたらよいか

- 坂下と坂上のつながりを感じられるように、坂上交差点にゲートなど入口を感じられる建築があるとよいのでは。
- 坂上交差点付近などで、店舗が立ち退きになり、そこをどのように再生するかが問題
- 坂上から坂下、坂下から坂上へ行く動機を改めて考え、それを生み出す
- デジタルサイネージなども使い、昔の神楽坂を表示するマップや写真などの掲出があるとよい
- 大久保通りも坂があるので、〇〇坂のように名前を付けて関連させる
- 分断を逆手にとって、まちのハブスペースとして利用する
- 坂上と坂下で個性がわかりやすくなり、大久保通りがそれをつなぎ調和するようになればよい
- スクランブル交差点として、人が行き交うようにする。交差点広場。
- 坂下と坂上の商店街が協調できていない →もっと協調すべし。
- 坂下だけ、坂上だけの案内板ばかり →坂下と坂上の両方が案内された看板。

- 坂下と坂上も同じ町だと思っている人が多いが、そもそも違う町であり、これから分断されるという認識ではないのでは。しかし、坂下と坂上は元来は異なる町だが地域としては同じなので統一感が必要という意見もある。→坂下と坂上それぞれの良さで人を呼び、その変化で行き来を増やすことがよいのでは。町の顔が変わっていくのを見る面白さがある。
- 信号で長く待たされると、渡るのが嫌になる

3. 道路整備までの間、空き地の暫定利用をどうすればよいか

- 暫定空き地は開放し、ベンチやテーブルを置き、休憩スペースにする
- 空き地をイベントのバックヤードとして利用することができた
- 都が整備しているためハードルは高いが、新宿区が動けば実現性はある。
- 暫定利用のためには、エリアマネジメントを行うまちの組織が必要。そこが収益を上げて、まちづくりに還元する。
- 仮設店舗や移動カフェなどを設け、土地の管理を行う。
- 地元の人が利用できるイベントスペース、コミュニティスペース。
- 神楽坂の歴史を感じられる写真展示スペース。
- 仮囲いの中にゴミを投げ入れる人がいるのを何とかしたい。
- フェンスで囲い、日本橋で工事中にお江戸日本橋が描かれていたように趣のあるペイントをする。
- 緑地エリアにすればゴミを投げ入れる人は減るのではないかと →緑地にしてもポイ捨ては減らないという事例がある →どういう緑を選び、どういう管理をすれば乱雑にならないか。ベンチの設置等をして活用すれば投げ入れる人は減るのでは。
- ミニパークなど休憩施設を設ける

4. その他

- 神楽坂では他者に決められるより、自分たちでまちづくりを進めていきたいという考えがある。 → 様々な人たちが行動できる「キャンパス」を作りたい。
- 広くなるからには人が集まってほしい
- 直線的ではなく平面的な広がりをつくりたい
- 建物の用途よりも人々の使われ方から考えていく
- 人が来すぎてしまうと、神楽坂らしい風情やヒューマンスケールといった価値が損なわれる。来訪者をコントロールすることも必要ではないか。